

美術の窓 (127)

賄方朝鮮人図の系譜

大和文華館館長 浅野秀剛

この秋の「特別展 宮川長春」でお借りした作品の返却も終わったが、残念ながら祭の後の余韻に浸る間もなく、次から次に仕事が湧いてくる。だから、気持ちを切り替えるなければならないのであるが、今回の美術の窓は、展覧会の余得とでもいうべき収穫について記してみたい。

長春展の出品交渉は、昨年末には一応終わっていたのであるが、今年になって、重要なものをいくつか追加することができた。その一つに、佐賀県立名護屋城博物館が所蔵する「朝鮮使節騎馬図」(図1)がある。その作品は、『子爵税所家及某家御所蔵品入札目録(1917年9月)』に載るので、その後、戦争を挟み、誰かの手を経て、戦後に佐賀県立名護屋城博物館が購入した作品である。朝鮮人が、馬上で煙草を吸いながら何かを見上げている図であり、朝鮮通信使の一人を描いた作品と推定されるが、そうすると、正徳元年(1711)

か享保4年(1719)の来朝を契機に制作を依頼された可能性が高い。

と、そこまでは、この夏までに調査していたので、図録に反映することができた。図録には記さなかったが、私は正徳元年の可能性が高いと考えている。ただし、通信使の来朝に合わせて制作されたものではない可能性も十分あるので、過度に憶測を重ねることを避けたのである。展覧会が始まってまもなく、他の調べ物で、シカゴ美術館の所蔵品図録を見ていたら、小松軒(小松屋百亀)画「朝鮮使節騎馬図(敢えて同一の題名にさせていただいた)」(中判錦絵、図2)が目飛び込んできた。明和2年(1765)の絵暦である。前年の明和元年に久方ぶりに使節が来朝したのを記念して絵暦にしたと思われる。長春の作品と比べると、影響関係は明らかであるので、11月3日の日曜美術講座の折にその話をした。その日の日曜美術

講座は、国際浮世絵学会の研究會も兼ねていたので、十数名の會員が講堂で聞いていた。そうしたら、その後、英一蝶にも似た作品があるということを複数の人から指摘された。不覚にも私は気づいていなかったのである。まもなく、指摘した一人である法政大学的小林さんからメールが来て、件の一蝶の画像が二図貼付されていた。一図は、たばこと塩の博物館所蔵の「東海道中通信使馬上喫煙図」(紙本着色一幅、図3)、もう一図は、英一蝶の絵を鈴木鄰松が写して刊行した『一蝶画譜』(明和7<1770>年刊)にある「賄唐人」(図4、目録では「台所唐人」となっている)である。私は、そこで初めて、賄唐人(朝鮮人)図が画題化していることを知ったのである。

確証はないが、最初に賄方朝鮮人図を描いたのは英一蝶であろう。推考が許されるのであれば、それは天和2年(1682)の来朝時であり、一蝶が数え31歳の時と思われる。図3がその時の作品かどうか、また、図4がその時に描かれた一蝶の作品を写したのかどうかは分らないが、一蝶は、彼特有の諧謔精神で、賄方の朝鮮人をモデルにしたのである。図3の作について、岩崎均史氏

は、『風俗画と浮世絵たばこと塩の博物館所蔵肉筆絵画撰』(2007)のなかで、「馬上の積荷の兎や鶏は、食肉の習慣のなかった江戸時代、通信使たちが自分たちの食料としてこのように運んでいたという。」と述べている。ただ、図4を見て図2を描いたことはほぼ確実としても、図2の馬に草鞋を履かせている馬子のイメージが図4にはない。だから、小松軒は、長春筆「朝鮮使節騎馬図」そのものか、その類似作品を見ているのだと思う。そして賄方朝鮮人図は、一蝶系の絵師を中心に描き継がれてきており、伝品はもっとあるに違いないと確信した。

そんな折、全くの偶然であるが、石水博物館の龍泉寺さんから、歌麿・後満などが参加した寄せ書きについての問い合わせがあった。それは文化(1804~18)中期のものと思われるのであるが、それに、談洲樓焉馬による「かまどのもとに僕をふす 台所唐人たちも朝夕に我ひの本をおろそかにすな」という狂歌が記されていたのである。台所唐人(賄方朝鮮人)図は、百年を超えて描き語り継がれていたことになる。その時突然、北斎画の、俗に中判東海道と呼ばれる「東海道五十三次」(中判錦絵56枚揃、伊勢屋利兵衛版)に朝鮮通信使が描かれていることを思い出した。確かめてみると、やはり「原」と「由井」にあった。2図もあるということは、文化8年の最後の通信使来朝と関連があるのであるのではないか、それによって、そのシリーズの制作年を絞り込めないであろうか。そんな思いまでよぎった。それらは、展覧会がもたらした思いがけない果実であった。

図1



図2



図3



図4



図2 “The Clarence Buckingham Collection of Japanese Prints Vol. II” The Art Institute of Chicago, 1965より複写

図3 『風俗画と浮世絵 たばこと塩の博物館所蔵肉筆絵画撰』(2007)より複写

季刊 美のたより No.185

平成26年1月5日

発行 大和文華館